

黒毛和種肥育牛の肥育後期において 濃厚飼料の 30%を飼料用米（粉砕籾）で代替

肉用牛肥育経営においては濃厚飼料の大半を海外からの輸入飼料に依存しており、飼料自給率を向上させる対応策の一つとして飼料用米の利用が注目されています。しかし、飼料用米はそのままでは消化性が低く、トウモロコシ等の輸入穀物の代替として家畜に給与するには、粉砕や圧ペン等の処理が必要になります。そこで、黒毛和種肥育牛の肥育後期において、粉砕した飼料用籾米を 30%混合した飼料給与が牛の発育や枝肉成績に及ぼす影響を検討しました。

☆ 技術の概要

1. 供試牛として黒毛和種去勢肥育牛 3 頭×2 区（飼料用米区、対照区）を用いました。
2. 飼料用米区は、肥育後期（24～28 ヶ月齢出荷まで）において 4 mm メッシュで粉砕した籾米を肥育用配合飼料、大麦圧ペン、コーンミールと混合給与しました。それぞれの配合割合は原物で 33%（TDN ベースで 30%）、45%、11%、11%です。対照区は肥育用配合飼料を大麦圧ペン、コーンミールと混合給与し、配合割合はそれぞれ原物で 78%、11%、11%です。
3. 給与飼料の蛋白質含量および TDN は、それぞれ飼料用米区が 9.6%、72.4%、対照区が 11.6%、74.2%です。
4. 飼料摂取量や嗜好性に差が認められず、肥育終了時体重、一日当りの増体重および枝肉重量などは飼料用米区と対照区で大きな差がありません。
5. 肉質は、脂肪交雑で BMS No. 7、胸最長筋面積で 65cm²およびバラ厚で 8.5cm となり、肥育用慣行飼料を給与した場合と比較して遜色のない枝肉成績が得られました。



図1 飼料用米（右；籾粉砕）



図2 飼料用米を給与した肥育牛の枝肉

☆ 活用面での留意点

黒毛和種去勢牛の後期用配合飼料の 30% (TDN ベース) を粉砕飼料用籾米で代替できると考えられます。飼料用米を更に活用するためには給与期間の延長や給与割合の増加による肥育成績への影響を検討する必要があります。詳細は、宮崎県畜産試験場肉用牛部（TEL:0984-42-4344）にお問い合わせください。

（日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男）